

北海道文教大学 人間科学部

2018（H30）年度

自己点検・評価報告書

2019（R1）年11月20日

北海道文教大学

基準 1 理念・目的

点検・評価項目① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点 1 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

評価の視点 2 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の関連性

1) 建学の精神

『清正進実』（北海道文教大学・明清高等学校・附属幼稚園の建学の精神）

鶴岡学園の創設者鶴岡新太郎・トシ夫妻の遺された学訓『清く正しく雄々しく進め』を源に、1999（平成 11）年「北海道文教大学」開学へと建学の灯火は引き継がれてきた。その精神は今日も 4 本の柱として、学園に集う皆の心に刻まれている。

その 4 本の柱とは

- ① 真理を探究する清新な知性
- ② 正義に基づく誠実な倫理性
- ③ 未来を拓く進取の精神
- ④ 国民の生活の充実に寄与する実学の精神

我々はこれを要約し『清正進実』と呼び習わし、建学の精神としている。

2) 北海道文教大学の教育理念・目的

豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、理念と実践にわたり深く学術の教育と研究を行い、国際社会の一員として、世界の平和と人類の進歩に貢献し得る人材の育成を目的とする。

3) 北海道文教大学の教育目標

本学園の建学の精神および本学の教育理念の根底を成すのは「未来を拓くチャレンジ精神」である。本学ではこの「未来を拓くチャレンジ精神」の下、実学の創生、伝承の拠点として発展するために中・長期的な目標を以下のように定めている。

- ① 科学的研究に基づく実学の追求
- ② 充実した教養教育の確立
- ③ 国際性の涵養
- ④ 地域社会との連携

人間科学部の教育理念と人材育成の目的は、建学の精神並びに北海道文教大学の教育理念・目的に則り、人々が健康と幸福を追求することを支援するため、保健・医療・福祉・教育の分野において、心身の状態や生活環境における個人のレベルにとどまらず、人間の本質、人格の発達、成長と老化、社会における人間のあり方など、現代社会を理解するための知識と方法論を教授し、高度な問題解決能力を培い、実社会において主体的に行動できる人材の育成を目的とする。幼児から高齢者におよぶ専門的知識と技能を身に付け、単に専門的分野に関する素養があるばかりでなく、豊かな市民的教養と倫理性を持つとともに新しい課題に適切に対応できる高度な理解力、判断力、実行力を有する人材育成を目的としている。

これにもとづいて、人間科学部の教育目標は、「保健・医療・福祉・教育・保育分野への社会的要請に対応し、人々の健康と幸福を支援するために、人間の本質、人格の発達、成長と老化、社会における人間のあり方など、現代社会を理解するための知識と方法論とを修得するとともに、高度な問題解決能力を培い、専門知識と技術を身につけ実社会に貢献する人材を養成する」と明示されている。

これは、「北海道文教大学の教育目標」である「科学的研究に基づく実学の追求」、「充実した教養教育の確立」、「地域社会との連携」を医療福祉教育分野に適用したものであり関連している。

人間科学部の教育目標をもとにして各学科の教育目標が以下のように定められている各学科の教育目標の中には高度な専門的知識・技術をもつ実践家の育成、地域社会への貢献をうたっており、ここに地域に貢献できる実学の追求という、本学の個性が反映している。また、これらは高度な教育を必要とするものであり高等教育機関としてふさわしいものである。

健康栄養学科では教育目標を、「食品や食物を介してヒトの健康にアクセスする「食物栄養学」に関する高度な専門的知識・技術と、フードサービスマネジメントや臨床栄養学に基づいて直接ヒトの健康にアクセスする「人間栄養学」に関する体系的な知識・技能を修得し、これらを両輪として活用することで現代社会に生きる人々の健康の維持と向上、地域や国際社会の健康問題解決のために活躍できる管理栄養士を養成する。」と明示している。

理学療法学科では教育目標を「小児から高齢者まで各種疾患・障害の予防・治療に関する高度の専門的知識・技術を修得し医療・福祉施設及び地域医療においてリハビリテーションチームの一員として活躍できる能力を養うとともに、科学的根拠に基づいた理学療法を自ら実践でき、国際的視野を有する理学療法士を養成する。」と明示している。

作業療法学科では教育目標を「人間性豊かで適切な倫理観を持ち、高度な専門的知識と技術を修得するとともに、地域における作業療法の総合的な理解、コミュニケーション能力、国際性及び科学的・論理的思考法を身につけ、臨床的実践家として活躍できる作業療法士を養成する。」と明示している（資料 北海道文教大学学則 第1章第3条の2）。

看護学科では教育目標を「医療の高度化や看護ニーズの多様化等に対応していくため、看護を取り巻く幅広い知識体系から看護職者に求められる豊かな人間性と倫理観及び高度な知識・技術を修得する。更に、専門職としての自発的な能力開発を継続するための能力や看護の向上に資する研究能力の基礎を育成し、地域、国際社会に貢献する実践力のある看護師を養成する」と明示している。

こども発達学科は教育目標を「こどもとこどもの周辺に生じている様々な変化に対応し、こどもの心と体の仕組みや発達とその支援について実践的に学ぶとともに、こどもに関わる幅広い分野における教育研究を行い、高度かつ最新の専門的知識・技術を有する保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭として活躍することができる人材を養成する。」と明示している。

(2) 長所・特色

人間科学部は、保健・医療・福祉・教育・保育分野への社会的要請に対応し、人々の健康と幸福を支援するため、各学科の教育目標の中には高度な専門的知識・技術を持つ実践家の育成、地域社会に貢献できる実学の追及をうたっており、本学の個性が反映されている。

(3) 問題点

人間科学部では、教育目標に国際性の涵養をうたいながら海外への留学は極めて少ない。今後は国際性の涵養を促進するために、海外協定校などへの短期留学など機会創出が必要である。

基準 4 教育課程・学習成果

点検・評価項目① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

評価の視点 1 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

人間科学部の各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）は以下のように授与する学位ごとに設定されている。いずれも、修得すべき知識、技能、態度等の学習成果が明確に示され授与する学位にふさわしい内容となっている。

健康栄養学科のディプロマポリシーは、「健康栄養学の学位は、人々の健康と社会の福祉に貢献することができる豊かな人間性を持ち、『社会から望まれる管理栄養士』に必要な以下の能力を修得したとき授与する。」と明示され、

- A 病院等における栄養補給法に関し、医療チームに対して必要な提案や助言ができる。
- B 地域住民の疾病予防や健康増進のための栄養教育を、栄養疫学に基づいて展開できる。
- C 栄養学的なエビデンスに基づき、食品関連企業等において商品開発や製品の管理に参画できる。
- D 個人・集団の健康状態等に適応する、適切に栄養管理された食事が提供できる。

上記のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対し卒業を認め、栄養学の学位を授与する。

また、その目標を達成するため、以下のような知識・技術を身に付けるための教育を実施する。

- ① 知識・理解度 A 人々の健康管理や健康の維持・増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につける。B 科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につける。C 地域社会の生活習慣病予防・健康増進を展開するために必要な知識・技術を身につける。D 特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につける。
- ② 汎用的技能 A 学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。B 協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。C 組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。
- ③ 態度・志向力 A 社会の一員であるという自覚をもって自己管理を行い、何事にも

率先し、精一杯努力して取り組むことができる。B 学問は、常に発展途上であり、自らに欠けている点を自覚して、他者から謙虚に学ぶ姿勢を持つことができる。C 人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。

- ④ 学習経験・思考力 A 課題発見、解決を通して、科学的根拠を持ち、適切な評価・判定をする能力を持つことができる。

となっている。

理学療法学科のディプロマーポリシーは

- ① 知識・理解 A.理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。
B.理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。
- ② 思考・判断 A.理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。
- ③ 関心・意欲 A.対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。
B.医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。
- ④ 態度 A.幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。
- ⑤ 技能・表現 A.理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。

となっている（資料 大学ホームページ 3つのポリシー）。

作業療法学科のディプロマーポリシーは

- ① 作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。
- ② 作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。
- ③ 作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。
- ④ 作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。
- ⑤ 作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。
- ⑥ 根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。

となっている（資料 大学ホームページ 3つのポリシー）。

看護学科のディプロマーポリシーは

- ① 看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得することができる。

- ② 人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力を持ち、協働しながら援助を実践することができる。
- ③ 人々の健康増進に関心を持ち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることができる。
- ④ 科学的に思考し、創造的に問題や課題を探究し解決することができる。

となっている。

こども発達学科のディプロマポリシーは

- ① 卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。
- ② こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。
- ③ 保育者・教育者・子育て支援者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力、及び同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を獲得する。
- ④ 今日の保育・教育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。
- ⑤ 主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を修得している。

となっている。

人間科学部の各学科のディプロマポリシーおよび「教育理念と人材育成の目的」は大学ホームページに公表しており、広く社会に公表されている。

点検・評価項目② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

評価の視点1 下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表

- ・教育課程の体系、教育内容
- ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等

評価の視点2 教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

人間科学部の「教育課程の基本方針」は以下のようになっている（2018 学生便覧 8 履修ガイド p. 70）。

- ① 4年間一貫教育
- ② 教養教育の重視
- ③ 学外実習の充実
- ④ 進級・卒業要件の厳格化

教育目標達成のために人間科学部の教育課程においては「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」を配置している。具体的な教育課程の編成内容は、学科ごとに学生便覧の「教育課程の構成と概要」に明示されている。また、科目区分、必修・選択の別、単位数、配当年次および学期を、北海道文教大学学則、別表第2に明示している。

人間科学部を構成する各学科は教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を定め、授業科目を構成している。

健康栄養学科のカリキュラムポリシー（CP）は、「管理栄養士に求められる能力を身に付けるため、以下のような方針で教育課程を編成・実施する」と明示され、

- A 健康栄養学科の教育課程の編成は、社会で活躍する管理栄養士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置して効率的な学習を施行する。また、「総合演習」、「臨地実習」および「卒業研究」を通じて、管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養う。
- B 「管理栄養士概論」「食・生活教育演習」などの導入教育と位置付けられる科目の学習を通じて明確な管理栄養士像を造り上げる。
- C 多様な学生に対応するため、高校で学んだ内容も含んだ基礎的な科目を配置し、すべての学生が専門的な科目を学ぶために必要な知識・学力を身に付ける。これにより、高校教育から大学における専門教育へと、連続的・統一的に学習が進められるようにする。
- D 栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な基礎教育科目、技術・スキルの基礎としての実験・実習科目を配置し、2年次以降に学ぶ専門科目主体の学習への素地を醸成する。
- E 栄養士法、同法施行令、施行規則及び管理栄養士学校指定規則、並びに、学則で定められた専門基礎科目及び専門科目をもとに、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許、食品衛生管理者及び食品衛生監視員(任用資格)を取得するために必要な科目を配置する。
- F 2年次後期から3年次前期にかけて豊富な学内実習を設置し、管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身に付けたうえで、3年次後期から4年次前期の臨地実習につなげカリキュラムを構成している。こうした科目配置により、就職活動への支障を極力抑えるように配慮している。

理学療法学科のカリキュラムポリシー（CP）は次のように定められている。

1. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけるために、多彩な教養科目を配置し専門基礎科目と専門科目との連携を図ります。
2. 理学療法学の専門的知識・技術を系統的に学べるように専門基礎科目および専門科目、臨床実習を体系的に配置します。
3. 医療にかかわる他の職種と適切な連携をとり、地域社会に貢献できる人材を養成するために必要な専門基礎科目や専門科目を配置します。
4. 先進的な研究成果の理解力、課題探求能力、論理的な問題解決能力を身につけるために、少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開します。
5. 理学療法士国家試験受験資格を得ることができます。

作業療法学科のカリキュラムポリシー（CP）は次のように定められている。（資料大学ホームページ 3つのポリシー）

1. 教員は、学生とともに新しいことに挑戦し、学生を励まし、学生の伸びを認める姿勢を保つ。

<教育課程編成>

2. 学習者中心型教育・学習成果基盤型教育のために、体系性と順次性を重視した科目配置を行う。

<学修方法・学修過程>

3. 問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。
4. 知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。
5. 作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラークシップ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。
6. 特に初年次においては、多様な入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように促す。

<学修成果の評価>

7. 学習成果の把握のために、各科目における到達目標を明確に提示し、成績評価を厳格に行う。
8. 筆記試験に加え、OSCE（客観的臨床能力試験）、ポートフォリオ、ルーブリックなどを用いた多面的で質の高い評価を行う。
9. 評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。

看護学科のカリキュラムポリシー（CP）は次のように定められている。

1. 看護師免許取得に必要な看護学の基礎となる教育内容を体系化したカリキュラムを

作成している。

2. 前期から看護の基盤となる講義や実習を配置して、看護学を専攻した入学時の動機づけが継続できるように配慮している。
3. 本学科の特徴は、1年次から4年次まで、講義で得た知識を、演習や実習で強化できるようにバランスよく科目を配置していることである。これにより「看護師国家試験受験資格」が得られるカリキュラムになっている。
4. 実習は、主に3年次後期から4年次前期に集中して行われる。このため、3年次後期から就職への心構えや準備を整えている。

こども発達学科のカリキュラムポリシー（CP）は次のように定められている。

1. 保育者・教育者・子育て支援者として求められる知識・能力を乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶとともに、そのいずれかについて一層深い知識を身につける。
2. こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習することによって、保育者・教育者としての資質・能力の形成へとつなげる。
3. 初年次は基礎ゼミ等による科学的探究方法への入門教育や、文章表現能力形成等の基礎教育に加え、こどもの成長・発達やそれを実現する教育についての全般的な理解を図る。
4. 保育士資格ならびに幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭のうちの3つの免許取得を基本とし、豊富なボランティア活動を行う。
5. 保育士に関する学外実習は2、3年次、その他の教員免許に関する実習は4年次、就職活動は4年次に実施し、その前後に次週準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践能力を形成する。

人間科学部の各学科における教育課程は、(1)教養科目、(2)専門基礎科目、(3)専門科目から構成されている。これに関して各学科の教育課程の編成・実施方針で、健康栄養学科ではカリキュラムポリシー（CP）のA、理学療法学科ではCPの1～3で明確に示されている。また、作業療法学科ではCPの2、看護学科ではCPの1で体系的なカリキュラムを作成することが示されている。

各学科の教育内容はカリキュラムポリシーの中で健康栄養学科、理学療法学科、こども発達学科で明示されている。作業療法、看護学科で課程編成の方針が述べられているが、教育内容の詳細についてはふれていない。

教育課程を構成する授業科目区分に関して、健康栄養学科ではCPの1に専門科目の9分野のうち3分野が明示されている。その他の学科では分野名をCPの中で列挙することは行われていない。

人間科学部の各学科における授業形態は、講義科目、演習科目、実習・実技科目となっている。これに関して各学科の教育課程の編成・実施方針で、健康栄養学科ではカリキュラムポリシー（CP）のDで技術・スキルの基礎を修得するための授業形態が実験・実習科目であると明示され、看護学科ではCPの3で明確に示されている。その他の学科ではCPの中で敢えて明示していない。

教育課程の編成内容

人間科学部各学科の具体的な教育課程の編成内容は、学科ごとに学生便覧の「教育課程の構成と概要」に明示されている。また、科目区分、必修・選択の別、単位数、配当年次および学期を、北海道文教大学学則、別表第2に明示している。

人間科学部の各学科における教育課程は、(1)教養科目、(2)専門基礎科目、(3)専門科目から構成されている。このうち人間科学部のみ専門基礎科目があり、これは、各学科の専門分野の知識や技術を習得するための基盤となる科目である。

人間科学部における教養教育は、保健・医療・福祉・教育にたずさわる者に必要な、豊かな人間性・社会性と高度な教養を身につけることを主眼においている。そこで、教養科目は各学科とも「人間と文化」、「社会と制度」、「自然と科学」、「外国語」、「スポーツと健康」、「総合領域」の6分野から構成されており、それぞれの分野の内容は以下のようになっている。

「自然と科学」分野では科学的思考の基礎、情報処理能力を養い、「人間と文化」、「社会と制度」、「スポーツと健康」分野は人間としての尊厳を制度・経済、文化等多角的な視点から理解するため、「外国語」分野では英語の他に中国語を配置している。教養科目を人文社会科学系から自然科学系の科目にわたって幅広く開講しており、広く深い教養や倫理性を身につけ、総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮している。いずれも人間科学部の教育課程の基本方針②「教養教育の重視」を具体化するための科目である。

各学科の専門基礎科目および専門科目の授業科目区分と内容は以下のようになっている。

健康栄養学科の専門基礎科目、専門科目は、栄養士法施行規則、および管理栄養士学校指定規則により指定された教育内容を開設している。専門基礎科目では、管理栄養士を目指す動機付けにつながることをねらいとし「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」の3分野をおく。また、専門科目は、管理栄養士としての専門性を高めるために「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」の6分野と、その専門分野の教育内容を包含する「総合演習」、「臨地実習」、さらに学習をより深める「総合」分野を置き、合わせて9分野から成り立つ。「総合」分野の「卒業研究」は、深く関心を持った分野からテーマを決め、研究計画のもと研究を進める能力を養っている。

理学療法学科の専門基礎科目、専門科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則カリキュラムに準拠して、理学療法士国家試験受験資格が得られるように必要な科目を開設している。専門基礎科目では「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」、「保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念」の3分野をおく。「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」分野には「臨床栄養学」を選択科目として設け、栄養サポートチーム（NST）、並びに、居宅でのケアやリハビリテーションに対応できるように配慮している。

専門科目は理学療法士としての専門性を高めるために、「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」の5つの分野から構成される。「基礎理学療法学」分野の中の「理学療法研究セミナー」や「理学療法研究Ⅰ、Ⅱ」の科目で卒業研究を行い、科学的根拠に基づいた理学療法実践の方法論を学ぶとともに、リサーチ・マインドをもった理学療法士を育成している。また、最新の医学・医療・理学療法に関する知見と科学的なものの見方を養うために、「理学療法技術セミナー」の科目を設け、統合的な演習・実習を展開している。

作業療法学科の専門基礎科目、専門科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則カリキュラムに準拠して、作業療法士国家試験受験資格が得られるように必要な科目を開設している。専門基礎科目は「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」、「保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念」の3分野をおき、原則として理学療法学科と共通の科目を開設している（資料 平成30年度 大学学生便覧 010 履修ガイド p.80）。

専門科目は作業療法士としての専門性を高めるために、「基礎作業療法学」、「作業療法評価学」、「作業療法治療学」、「地域作業療法学」、「臨床実習」の5つの分野から構成される。

「基礎作業療法学」分野の中の「作業療法研究法」および「作業療法研究法演習Ⅰ、Ⅱ（平成30年度の4年生は旧カリのため作業療法研究Ⅱ）」で卒業研究を行い、科学的根拠に基づいた作業療法実践・研究の方法論を学ぶ。さらに、「作業療法治療学」分野では、最新の医学・医療・作業療法に関する知見と科学的なものの見方を養うために、「身体障害作業療法治療学特論Ⅰ（運動器）」「身体障害作業療法治療学特論Ⅱ（中枢系）」「高齢期作業療法治療学特論」「精神障害作業療法治療学特論」「地域作業療法学特論」を選択科目として設け、より将来的な展望に立った本学独自の教育内容を自由に選択できるようにしている（資料 平成30年度 大学学生便覧 010 履修ガイド p.80～81）。

また、作業療法学科はWFOT（世界作業療法士連盟）認定校として継続認定されており（2016年3月）、そのために必要な臨床実習1000実時間を満たすカリキュラムが編成されている（資料 作業療法学科 WFOT 認定証）。このように海外で活動したい学生のための教育基盤を整えている。

看護学科の専門基礎科目、専門科目は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づき、看護師国家試験受験資格が得られるように必要科目を開設している。専門基礎科目では「人

体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の3分野をおく。「健康支援と社会保障制度」分野の中の「保健・医療概論」「チーム医療概論」の科目では、医療人として重要な資質を育むように配慮されている。

専門科目は看護師としての専門性を高めるために、「基礎看護学」、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」、「在宅看護論」、「看護の統合と実践」、「臨地実習」の9つの分野から構成される。「看護の統合と実践」分野の中の「看護研究Ⅰ、Ⅱ」の科目で、科学的根拠に基づいた看護実践・研究の方法論を学ぶ。「臨地実習」分野では、すべての臨地実習を修得したのち看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象や場に応じた実践力を養う「継続統合看護学実習」という科目を設けている。

こども発達学科の専門基礎科目、専門科目は、卒業時に小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許、保育士資格が得られるように必要科目を開設している。このうち専門基礎科目は「学びの理解」、「教育・保育の理解」、「こども支援」、「子育て支援」の4つの分野から構成される。「学びの理解」分野の「基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ」の科目では、少人数編成でグループ活動を通じて学習・研究活動における基礎的力量的形成、コミュニケーション能力の養成を目的とした授業を展開している。

専門科目は「保育の理解」、「対象の理解」、「保育方法の理解」、「表現方法の理解」、「小学校・幼稚園教科科目」、「小学校・幼稚園教職科目」、「小学校教職科目」、「特別支援専門科目」、「学外・校外実習」、「総合科目」の10分野から構成され、幼稚園教諭免許、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許取得、保育士資格取得の必修科目と総合的な科目が配置されている。「総合科目」分野は、広く深く人間を学び、専門的職業人としての幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、保育士、地域において教育・保育のアドバイザー、コーディネーターとして活躍することができるための科目や、基本的な研究能力を培う科目である「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」が配置されている。

健康栄養学科のカリキュラムポリシーは以下の表のようにディプロマポリシーに対応しており整合している。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
<p>A の後半 「総合演習」、「臨地実習」および「卒業研究」を通じて、管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養う。</p>	<p>①知識・理解度 B 科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につける。</p>
	<p>② 汎用的技能 A 学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。</p>

	④ 学習経験・思考力 A 課題発見、解決を通して、科学的根拠を持ち、適切な評価・判定をする能力を持つことができる。
D 栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な基礎教育科目、技術・スキルの基礎としての実験・実習科目を配置し、2年次以降に学ぶ専門科目主体の学習への素地を醸成する。	①知識・理解度 A 人々の健康管理や健康の維持・増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につける。
	①知識・理解度 C 地域社会の生活習慣病予防・健康増進を展開するために必要な知識・技術を身につける。
	②汎用的技能 B 協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。
B 「管理栄養士概論」「食・生活教育演習」などの導入教育と位置付けられる科目の学習を通じて明確な管理栄養士像を造り上げる。	①知識・理解度 D 特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につける。
F 2年次後期から3年次前期にかけて豊富な学内実習を設置し、管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身に付けたうえで、3年次後期から4年次前期の臨地実習につなげカリキュラムを構成している。こうした科目配置により、就職活動への支障を極力抑えるように配慮している。	②汎用的技能 C 組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。
	②汎用的技能 B 協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

理学療法学科のカリキュラムポリシーは以下の表のようにディプロマポリシーに対応しており整合している。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
1. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけるために、多彩な教養科目を配置し専門基礎科目と専門科目との連携を図ります。	③ 関心・意欲 A.対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。 ⑤ 技能・表現 A.理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。

2. 理学療法学の専門的知識・技術を系統的に学べるように専門基礎科目および専門科目、臨床実習を体系的に配置します。	① 知識・理解 A.理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。
3. 医療にかかわる他の職種と適切な連携をとり、地域社会に貢献できる人材を養成するために必要な専門基礎科目や専門科目を配置します。	③ 関心・意欲 B.医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。
4. 先進的な研究成果の理解力、課題探求能力、論理的な問題解決能力を身につけるために、少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開します。	① 知識・理解 B.理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。 ② 思考・判断 A.理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。④ 態度 A.幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。

作業療法学のカリキュラムポリシーのうち〈学修方法・学修過程〉の4項目は以下の表のようにディプロマポリシーに対応しており整合している。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
3. 問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。	②作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。 ⑤ 作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。 ⑥ 根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。
4. 知的な好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。	④ 作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。
5. 作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラークシップ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。 6. 特に初年次においては、多様な入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように促す。	① 作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。

看護学科のカリキュラムポリシーはカリキュラム全体の年次配置の方針が述べられている

るため、個々のディプロマポリシーへの対応づけというより全体的な整合のしかたとなっている。

こども発達学科のカリキュラムポリシーは以下の表のようにディプロマポリシーに対応しており整合している。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
1. 保育者・教育者・子育て支援者として求められる知識・能力を乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶとともに、そのいずれかについて一層深い知識を身につける。	②こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。
2. こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習することによって、保育者・教育者としての資質・能力の形成へとつなげる。	①卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。
3. 初年次は基礎ゼミ等による科学的探究方法への入門教育や、文章表現能力形成等の基礎教育に加え、こどもの成長・発達やそれを実現する教育についての全般的な理解を図る。	⑤主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を修得している。
5. 保育士に関する学外実習は2、3年次、その他の教員免許に関する実習は4年次、就職活動は4年次に実施し、その前後に次週準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践能力を形成する。	③保育者・教育者・子育て支援者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力、及び同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を獲得する。
	④今日の保育・教育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。

人間科学部の各学科のカリキュラムポリシーは大学ホームページに公表しており、広く社会に公表されている。

点検・評価項目③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわし

い授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

評価の視点 1 各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

- ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
- ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
- ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
- ・個々の授業科目の内容及び方法
- ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
- ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定

＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等

評価の視点 2 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

人間科学部の各学科における教育課程は、(1)教養科目、(2)専門基礎科目、(3)専門科目から構成されている。

人間科学部における教養教育は、保健・医療・福祉・教育にたずさわる者に必要な、豊かな人間性・社会性と高度な教養を身につけることを主眼においている。そこで、教養科目は各学科とも「人間と文化」、「社会と制度」、「自然と科学」、「外国語」、「スポーツと健康」、「総合領域」の6分野から構成されている。全学共通の教養科目としては、「総合教養講座」「日本国憲法」「統計の基礎」「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「生涯スポーツⅠ」「生涯スポーツⅡ」がある。

このうち「総合教養講座」は各学部・学科の専門的知識の学習に続く橋渡しを行い、学生のモチベーションを啓発し、豊かな人間性を養うことに主眼をおいている。また、「統計の基礎」はデータを分析しその統計学的根拠を示す力の育成、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」は社会に出て最低限必要となるコンピュータリテラシーを養成する。

「生涯スポーツⅠ」「生涯スポーツⅡ」はどの分野においても体力が基本であるため、スポーツ活動の意義、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を養っている。これらはいずれも社会に出て必須となるものであり、学士教育に相応しいものである。

教養科目（6分野）のうち総合領域、自然と科学の分野においては、科学的思考の基盤や豊富なIT機材・設備を使用して情報処理能力やプレゼンテーション技術を養う。人間と文化、社会と制度、スポーツと健康の分野においては、人間としての尊厳を倫理面のみならず、制度・経済、文化等多角的な視点から理解を深める。外国語は、外国語学部を併設することの利点を生かし、実践に則した「英語」の科目を開講して充実させ、北海道文教大学の地域的特性から「中国語」を選択科目として設けている。「現代社会とキャリアプランⅠ～Ⅱ」では、専門職である前に自立した社会人となるように、社会人基礎力を高めることを目標と

している。

健康栄養学科の専門基礎科目、専門科目は栄養士法施行規則、および管理栄養士学校指定規則により指定された分野の科目を開設している。これらのうち管理栄養士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目は3分野、専門科目は管理栄養士としての専門性をたかめる6分野と、教育内容の統合を目的とした3分野から成り立っている。

理学療法学科の専門基礎科目、専門科目は理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則カリキュラムに準拠して、理学療法士国家試験受験資格が得られるように必要科目を開設している。このうち理学療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目は3分野、理学療法士としての専門性を高める専門科目は「臨床実習」分野を含めた5分野から成り立っている。

作業療法学科の専門基礎科目、専門科目は理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則カリキュラムに準拠して、作業療法士国家試験受験資格が得られるように必要科目を開設している。このうち作業療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目は3分野、作業療法士としての専門性を高める専門科目は「臨床実習」分野を含めた5分野から成り立っている。

看護学科の専門基礎科目、専門科目は保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づき、看護師国家試験受験資格が得られるように必要科目を開設している。このうち看護師の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目は3分野、看護師としての専門性を高める専門科目は「臨床実習」分野を含めた9分野から成り立っている。

こども発達学科の専門基礎科目、専門科目は卒業時に小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許、保育士資格が得られるように必要科目を開設している。このうち教育・保育・地域支援の学修の基幹となる専門基礎科目は4分野、こどもの発達とその支援について学ぶための専門科目は「学外・校外実習」分野および「総合科目」分野を含めた10分野から成り立っている。なお、学生により取得する免許・資格が異なるため、教育課程上の扱いとしては多くが選択科目として配置されている。1、2年次には保育士資格、幼稚園教諭一種免許状取得のための科目群を配置し、その基礎の上で3年次を中心に4年次にかけて小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状取得のための科目群を配置している。

人間科学部の各学科における授業科目は、教養科目にはじまり、専門分野の基礎的な科目から専門性の高い科目につなげるように配慮されている。

健康栄養学科では1年次には教養科目を主にしながら専門基礎科目を一部配置し、2年次には専門基礎科目を主にしながら専門科目を一部配置している。3年次は専門科目を主としており、4年次は臨床実習、演習を主として配置し専門基礎科目、専門科目で修得した知識・技術を統合するように配慮している。

理学療法学科では1年次には教養科目を主にしながら、専門基礎科目の基礎医学系科目群を1年次から2年次に配置している。2年次には専門基礎科目の応用医学系科目群を主として配置し、3年次は理学療法士専門科目を主として配置している。4年次には実習施設における長期の総合臨床実習や理学療法研究を中心に、より実践的な理学療法士としての能力の向上や研究心を養う科目を配置している。

作業療法学科では1年次には教養科目を主にしながら、専門基礎科目の基礎医学系科目群を1年次から2年次に配置している。2年次には専門基礎科目の応用医学系科目群を主として配置し、3年次は作業療法士の専門科目を主として配置している。専門科目は基礎作業療法学、作業療法評価学、作業療法治療学領域の順に優先配置し順次性を考慮している。特に基礎作業学、機能代償学、地域作業療法学を1年次から配置し、早い段階から作業療法の基礎を理解し、実践力を意識した学習ができるよう工夫している。4年次には実習施設における長期の総合臨床実習を中心に作業療法研究法演習や作業療法総合セミナーを配置し実践力、論理的問題解決力を兼ね備えた作業療法士を養成するためのまとめ学習を展開している（資料 平成30年度 大学学生便覧 別表第2ウ）。

看護学科では1年次には教養科目を主にしながら、専門基礎科目の基礎医学系科目群を1年次から2年次に配置している。2年次には専門基礎科目の応用医学系科目群を主として配置し、3年次は看護師の専門科目を主として配置している。3年次と4年次には実習施設における臨地実習や、より実践的な看護師としての能力の向上や研究心を養う科目を配置している。

こども発達学科では1、2年時を基礎的課程、3、4年時を発展的課程として区別することなく、4年間全体で総合的な学修が可能となるように配慮されている。教養科目についても1年次から4年次まで、ほぼ均等に配置されている。

なお、初年次教育・高大連携に配慮した教育については、教養科目の「生命科学」「物理学」「統計の基礎」において行われ、各授業の中に高校の基礎知識を概観したのちに人間科学部の専門分野につなげるような内容を実施している。

なお、こども発達学科を除く各学科では、文章表現能力の基礎を身につけさせるために教養科目の「文章表現」が配置されている。こども発達学科においては、先に述べた専門基礎科目の「基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ」の中で読み書きの基礎を身に付けさせている。

また、健康栄養学科では、家庭での調理体験の顕著な不足を補う観点より調理科学、基礎調理実習を開設している。

作業療法学科では、1年次の「作業療法概論Ⅰ、Ⅱ」の科目において考察力・思考力を養う機会を提供している。また、臨床を担当する者に不可欠なコミュニケーション能力の重要性について学ぶ科目として「コミュニケーション技法」を配置し、外部講師と本学専任教師が協力して様々なコミュニケーション場面を提供し、体験を通して理論的理解も促すことにより、実生活の行動変容に繋がるように講義・演習を展開している。

こども発達学科では、平成 28 年度より、初年次教育として外部に教材を委託し取り組んでいる。名称は「Peer-Le1 年」とし、学生が教材の問題を行うに当たり、時間と場所を設定して実施しており、学生同士が教え合い、学びあう集団づくりを目指している。

2018 年度 4 月から学士課程におけるカリキュラムマップをシラバスの冒頭に提示した。カリキュラムマップはカリキュラム全体の構成を把握するためのもので、年次進行の中で関連のある科目を近い位置に表示するとともに、それぞれの科目が何を学ぶための科目なのか、どの学位授与方針（ディプロマポリシー）を達成するための科目なのかを示されている。さらに、専門科目や専門基礎科目と関連のある教養科目も示されている。これにより、教育の目的や課程修了時の学習成果と、各授業科目との関係が明確に示されている。（資料 WEB シラバス）

点検・評価項目④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

<p>評価の視点 1 各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <p>各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）</p> <p>シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）</p> <p>学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</p> <p>< 学士課程 ></p> <p>授業形態に配慮した 1 授業あたりの学生数</p> <p>適切な履修指導の実施</p>
--

大学の全学部および全研究科においてシラバス中の「授業の方法」において、①プレゼンテーションの方法、②授業形態、の他に③アクティブラーニングの取り入れの状況を記述するようになっている。また、2018 年度から「課題に対するフィードバックの方法」欄が独立した項目となりフィードバックを学生に返すことにより学生が意欲をもてるように配慮している。もともと人間科学部全体では、学内における実験・実習・演習のみならず学外実習も多数配置されているため、学生の主体的参加が必然的に求められている。

健康栄養学科では、1 年次より「解剖学」「生理学」「生化学」などの理科系専門基礎科目によって高校から大学への連携を計り、「基礎調理実習」において調理体験不足を補うと共に、「調理科学」「基礎食品学実験」「食品科学実験」などにより専門科目への橋渡しを行う

ている。2年次以降も、「応用食品学実験」「食品衛生学実験」「栄養学実験」「応用栄養学実験」「栄養療法実習」「公衆栄養学実習」「給食経営管理実習」「臨地実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」と、専門性を意識した実験・実習だけでなく、「解剖学実験」「生理学実験」「生化学実験」において広く理系全体を網羅するカリキュラムを実施している。また、「応用栄養学実習」「栄養療法実習」「給食経営管理実習Ⅰ、Ⅱ」では、食事計画の立案や献立作成、給食運営上の問題発見など、アクティブラーニングと同等の到達目標が設定されており、いずれも献立ノートや献立表の作成と提出を通し、学生への指導を徹底している。学外実習となる「臨地実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」では、事前学習を行わせる上、実習中に作成する実習記録ノートの提出と実習報告会により学生の学習成果をチェック、評価している。

理学療法学科の臨床実習科目では、日々学んだ学習内容をまとめるポートフォリオとしてデイリーノートを作成し、考察と感想を加えることによって自己フィードバックを行うように指導している。また、臨床実習終了後にはデイリーノートを提出させ、担当教員がその不足部分や課題を明確にしたうえで、学生へフィードバックしている。さらに、臨床実習期間終了後にミニ学会方式の報告会を行い、学生同士あるいは担当教員を含めた質疑応答や討論の場を設けた双方向授業を展開している。

作業療法学科では臨床施設見学、グループ学習、実技の繰り返し学習を多く取り入れて実施している。特に専門科目では、対人的コミュニケーション力養成のためのロールプレイやディスカッションの機会を多くし、様々な障がいをもつ当事者による講義、当事者や模擬患者を対象とした評価・治療の実技指導、OSCEなどを取り入れ、臨床場面を活用しての面接・検査技術修得等の授業方法の工夫を行っている。また、卒業研究発表会での学会形式のポスター発表や討論、学生自身による相互評価など多種多様な授業方法を工夫し、学生の主体的な参加を促している（資料平成30年度シラバス 作業療法学科 p. 61-62、p. 67-68、p. 75、p. 81-83、p. 88、p. 92）。また、1・2年次には、成績不良学生の学習指導のため、学生の希望に応じて適宜、必要な補修授業を開講している。さらに、4年間の臨床実習事後指導として、サマリー発表やプレイバックシアターにより、知的情緒的側面双方からの振り返りとフィードバックを行い、知識と態度への定着を図っている（資料 平成30年度シラバス 作業療法学科 p. 96-99）。

看護学科では問題や課題を探求し解決する能力を養うために、専門科目において、グループダイナミクスを生かしたグループ学習法を取り入れている。また、実習科目および演習科目においてはコミュニケーション能力を高めるためのディスカッションの機会が多数設定され、事例発表会の場を設け、アセスメント、看護の方法を明らかにするプロセスを教授している。さらに看護技術演習では、事前学習および事後学習に e-ラーニングを取り入れ学生個々の確実な技術習得を目指し、模擬患者による演習ではセルフマネジメントおよびセルフケアの支援に向けた援助技法を展開している。

こども発達学科の「教職原論」では、恵庭市の幼稚園・小学校において、観察参加学習を実施している。その学習をもとに、報告・討論を行い、教育現場に対する理解を深めること

ができています。また、「教科教育法理科」及び「教科教育法生活」では、学生がした指導計画と模擬授業の相互評価を導入している。指導計画については、その評価をフィードバックし、修正して提出させている。

人間科学部各学科のカリキュラムポリシーに従って教養科目、専門基礎科目、専門科目の教育方法は以下のようになっている。

教養科目のうち「スポーツと健康」分野、情報処理の科目、「外国語」分野では、演習形式をとっている。これらは言語、スポーツ、コンピュータ操作等の技術の修得を必要とする科目であり、それ以外の教養科目は講義形式をとっている。

専門基礎科目および専門科目においては、知識を習得する科目で講義形式、グループワーク等を行う科目等で演習形式、実技を養う科目で実習形式をとっており、適切に振り分けられている。なお、学外における臨地実習（健康栄養学科、看護学科）、臨床実習（理学療法学科、作業療法学科）、教育実習（こども発達学科）は実習形式の科目としている。

これらの専門科目、専門基礎科目においては、同一教学内容に対して①講義と実習の組み合わせ（例えば健康栄養学科の「運動生理学」と「運動生理学実習」等）、②講義と演習の組み合わせ（例えば理学療法学科の「地域理学療法学」と「地域理学療法学演習」）、③演習と教育実習の組み合わせ（例えばこども発達学科の「教育実習指導Ⅰ」と「教育実習Ⅰ」）をすることにより、知識と技術の修得の関連付けを行い修得度の向上を図っている。

各学科とも、資格取得および卒業に必要な単位数、選択科目の履修方法等を学生便覧の「履修の方法」において明示している。

大学全体の方針により各年次における履修登録単位数の上限は、国家資格等関係科目、教職科目を除き44単位以内、各学期26単位以内となっている。

さらに、入学時および各学年の前期授業および後期授業開始前に、学年毎に学年担任を主体に専任教員参加のもとに各学年での履修科目の確認、欠席・遅刻・早退の扱い方を含めて詳細なオリエンテーションを実施し、周知が行き届くように図っている。

また、指導教員制度として大学の全学科においてクラス担任、アドバイザーを設けるとともに、週2コマ以上のオフィスアワーを設けている。

シラバス作成において、準備学習・事後学習および必要時間を記述するように大学全体として求められている。

点検・評価項目⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

評価の視点1 成績評価及び単位認定を適切に行うための措置

- ・単位制度の趣旨に基づく単位認定
- ・既修得単位の適切な認定
- ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置
- ・卒業・修了要件の明示

評価の視点2 学位授与を適切に行うための措置

- ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示
- ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
- ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示
- ・適切な学位授与

人間科学部の成績評価は以下の「大学全体の成績評価の方法・基準」で示した評価の方法・基準に沿って成績を評価している。

また、シラバスに各教科について毎回の準備学習と事後学習を明示し、単位の実質化をはかっている。既修得単位の認定も大学全体の基準に従っている。

【大学全体の成績評価の方法・基準】

成績評価は本学の履修規程に基づき、各教員が事前にシラバス上で学生に公表した評価方法によって成績評価と単位認定を行っている。全学において授業科目の成績評価は、100点満点の60点以上を合格とし、AA(秀)(90点以上)、A(優)(80点以上90点未満)、B(良)(70点以上80点未満)、C(可)(60点以上70点未満)となっている。

定期試験期間中、病欠、公欠等の理由で受験できなかった場合に追試験を課している。また、評価の結果合格点には達していないが一定の条件を満たしている者をいったんDH(不可保留)とし、補習等を経て当該学期内に再評価をする制度が設けられている。なお、DHの後再評価の結果合格となった場合の成績評価はCとなる。

履修した科目の成績が合格となった場合は、定められた単位数を履修者に与えている。なお、成績評価に疑義のある場合は、文書による疑義申し立てと担当教員からの文書による回答をすることを制度化し、学生と教員が相互に成績評価の適正性を確認している。

授業科目は、「講義」、「演習」、「実習・実技」に大別されており、1単位を修得するための時間は以下の表のようになっている。よって、いずれも1単位の授業科目に45時間の学修を標準とする大学設置基準の主旨に従っている。なお、本学では授業1回90分を2時間と計算する。2単位の講義形式の授業科目であれば15回で授業時間が30時間、したがって自習時間は1回4時間×15回=60時間が必要となると指導している。学生の予習・復習時間を確保するため、シラバスには毎回の授業ごとに準備学習と事後学習の項目を設けて学生が自習時間にすべきことをきめ細かく指示し、単位の実質化をはかっている。

授業形態	授業時間	自習時間	計 (1単位当たり)
講義	15時間	30時間	45時間

演習	30～15時間	15～30時間	
実習・実技	45～30時間	0～15時間	

本学では、他の大学又は短期大学を卒業または中途退学している者に対する既修得単位の認定を行っている。また、他大学や短期大学との協議に基づき当該他大学または短期大学での授業科目の履修で修得した単位を本学での修得単位として認めている。これらにより与えることができる単位数は、編入学・転入学の場合を除き本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないこととしている。

人間科学部の学士（健康栄養学、理学療法学、作業療法学、看護学、こども発達学）については、本学学則に基づき「本学に4年以上在学し、所定の単位を修得した者」について教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学位を授与している。

各学科の卒業・修了の要件については、各年度に配布される学生便覧の「履修ガイド」の履修の方法において科目区別の必要単位数、単位の組み合わせの要件を詳細に記載して学生に明示している。

点検・評価項目⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

評価の視点1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定

評価の視点2 学習成果を把握及び評価するための方法の開発

《学習成果の測定方法例》・アセスメント・テスト・ルーブリックを活用した測定・学習成果の測定を目的とした学生調査・卒業生、就職先への意見聴取

人間科学部では、学生の学習成果を測定するための指標である GPA (Grade Point Average) は、平成 27 年度後期および平成 29 年度前期において大半の学生が良以上に相当する 2 以上となっている。

また、人間科学部の各学科は資格取得をめざすため、国家試験合格率は学習成果をはかるためのよい指標となる。人間科学部の新卒者の国家試験合格率は、平成 28 年度から 30 年度の 3 か年で、健康栄養学科の管理栄養士は、80.0%（全国平均 92.4%）、94.6%（全国平均 95.8%）、95.4%（全国平均 95.5%）である。理学療法学科の理学療法士は 92.2%（全国平均 82.0%）、100.0%（全国平均 97.5%）、96.0%（全国平均 87.7%）である。作業療法学科の作業療法士は 100.0%（全国平均 83.7%）、97.8%（全国平均 76.2%）、88.1%（全国平均 71.3%）である（資料ホームページ卒業生数 学位記授与数・資格取得者数 平成 28 年度～平成 30 年度 全国合格率はインターネット 2 社の発表

情報から。<https://careergarden.jp/sagyouryouhoushi/exam/>）。

看護学科の看護師は96.4%（全国平均94.3%）、100.0%（全国平均96.3%）、93.6%（全国平均94.7%）である。よって理学療法学科、作業療法学科、看護学科、健康栄養学科において高い合格率を維持している。

こども発達学科においては、平成30年度（29年実施）教員採用選考検査において、29名受験中、一次試験全員合格89.7%、二次試験合格（教員登録）12名であり、平成31年度（30年実施）教員採用選考検査において、27名受験中、一次試験全員合格100%、二次試験合格（教員登録）24名を数えた。また、これらは教員採用候補者選考検査に向けての講座を実施した成果である。

また、こども発達学科においては、平成25年度卒業の1期生では7名、2期生（平成26年度卒業）では13名、3期生（平成27年度卒業）では13名、4期生（平成28年度卒業）では10名、5期生（平成29年度卒業）5名、6期生（平成30年度卒業）3名と、毎年多くの公務員合格者を輩出するに至っている。これは平成24年度より行っている公務員就職対策講座による成果である。

就職率は平成28年度から30年度の3か年で、健康栄養学科で100%、100%、100%、理学療法学科で100%、100%、100%、作業療法学科100%、100%、100%、看護学科100%、100%、100%、こども発達学科100%、100%、100%であり、人間科学部全体では99.6%、100%、100%であり高い就職率を維持している。看護学科新卒業生の進学状況は、平成27年度は大学院研究科（助産師）1名、大学専攻科（助産師）3名、専修学校（保健師）1名、28年度は大学専攻科（助産師）2名、大学別科（養護）2名、専修学校（保健師）1名、平成29年度は大学院研究科（保健師）1名、専修学校（保健師）3名であった。（資料 過去3年間の就職状況）

なお、学生の自己評価、卒業時の評価を調査する組織的な取り組みとして、平成30年度卒業生（平成31年3月卒業）を対象に「学士課程教育卒業時アンケート」を実施した。

作業療法学科では、1年次前期の成績判定後から、全学で用いられているGPA(Grade Point Average)により、毎学期後に各学生の通算GPAを把握し、2.3未満の学生には「がんばろうグループ」であることを通知している。過去の国家試験受験学生のデータから、通算GPA2.3未満の学生は国家試験に合格するのが極めて難しいことが分かっているため、作業療法士に成る目標を達成するためには1年次から、より努力が必要なことを意識づけし、勉強方法などを指導している。

点検・評価項目⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

・学習成果の測定結果の適切な活用

評価の視点2 点検・評価結果に基づく改善・向上

教育課程及びその内容、方法の適切性は、各学科の学科会議の中で、教務関連事項として抽出されている。

カリキュラム改訂が必要となった場合、学部においては原案が学科会議で作成され、教務委員会、教授会の議論を経て決定される。カリキュラム改訂にともなう学則の変更は教授会の議により原案を作成し、理事会の議を経て行なわれている。

なお、国家資格に関連する学科においては文部科学省または厚生労働省への報告が行われ適切性の判定を受けている。

健康栄養学科は、平成25年度にカリキュラム改訂を行い、さらにこのカリキュラムの検証を踏まえて、管理栄養士養成課程コア・カリキュラムに準拠し基本を重視した新カリキュラムを平成29年度に策定した。また、毎年教育目標と学位授与方針に基づき学科会議の議論を経て適切な授業計画を作成している。

理学療法学科は、理学療法士国家試験出題基準（ガイドライン）の動向、理学療法士に求められる社会的ニーズの変化を見据え、基礎および各専門領域の一環性を思考することや学問を関連付けで展開していくことを趣旨として、平成28年度にカリキュラム改訂を行い平成30年度は3年次まで進行した。また、毎年、教育目標と学位授与方針に基づき学科会議の議論を経て適切な授業計画を作成している。

作業療法学科は、作業療法士国家試験出題基準（ガイドライン）の動向、日本作業療法士協会発行コア・カリキュラム、作業療法士に求められる社会的ニーズの変化に鑑み、平成28年度にカリキュラム改訂を行った。その後毎年、科目の教育内容や方法について教員間の議論を積み重ねて来た。平成30年10月25日に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定める教育内容や専任教員の要件等を改正することを厚生労働省と文部科学省が通知した。このため、令和2年度入学生から実施するカリキュラム作成を目指し、平成30年度11月から改訂作業を開始した。これは開学科以来5回目のカリキュラム改訂である。

作業療法学科では、DHやDが著しく多い科目は学科独自に補修授業を実施してきたが、低成績となる学生が毎年多い科目については、教育内容・方法の改善について担当教員にも工夫していただけるように協力を申し入れた。さらに、科目間の教育内容の順序性が適切かをシラバスによって調査し、学生が理解しやすいように教員間で教育内容の順序を調整する努力が必要であることを話し合っている。令和2年からのカリキュラム作成に当たっては、学生の理解がより得やすい科目配置順をさらに工夫する必要がある。

看護学科は、文部科学省により看護大学の「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の整備がされたことを受けて、現行カリキュラムの学習内容の見直しと科目名称の改定や新たな科目設置の検討を行った。合わせて、履修時間の整備と進度を見直しカリキュラム変更を申請した。承認を受けて31年度より新カリキュラムの実施となる。

こども発達学科では、教育目標や教育関連の編成・実施方針の適切性については、定期的に行っている学科会議の中で検証している。また、学位授与方針も同会議内で同様に検証されている。

各学科とも毎年、学科会議の議論を経て適切な授業計画を作成している。

(2) 長所・特色

健康栄養学科の家庭での調理体験の不足を補うため、「調理科学」「基礎調理実習」を配置している。学生はこの単位を修得しているため、到達目標の「食べ物の特質を理解し、適切な調理操作を知ることができる」「食品の加熱調理により基礎的な料理を調製することができる」を達成している。

理学療法学科の「理学療法研究Ⅰ、Ⅱ」では、各ゼミ教員からの個人的指導を受けることによって、卒業後でも研究を行い学会等で発表する能力を身に付けさせている。実際に研究した内容を、卒業後社会人となってから翌年以降の学会に発表する事例も数多くあり効果をあげている。

作業療法学科の「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究Ⅱ（旧カリ）」では、ゼミナール方式の小グループ体制で教員と密な学習形態で実施して研究課題を解決する能力の育成を図っている（資料 平成30年度シラバス p.61、p.62）。この能力は卒後に生かされ、多くの卒業生が学会発表を実現している。また、4年時開講科目である「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」では、卒業時の学生の基礎的臨床能力を向上させるため、既習の内容についての総復習を両科目で行っている（資料 平成30年度シラバス p.89、p.90）。各専門領域の教員が基礎的内容、臨床的内容をふまえて講義・演習を担当し、作業療法士として必要な知識・技能の確認を綿密に行っている。上記の2科目は学生の能力向上に大きく寄与し、作業療法士国家試験において平成28年度は全員が合格。平成29年度（97.8%）、平成30年度（88.1%）においても全国平均を大きく上回る合格率となり、北海道養成校の中で一番多くの作業療法士を輩出することができた。

こども発達学科では、学習・研究活動における基礎的力量的形成、コミュニケーション能力の養成を目的として少人数で授業を行う「基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を配置している。また、3年次の前期・後期にわたり、やはり少人数で授業を行う「こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、保育・教育・地域活動などからテーマを選択し、主体的な学びにより理論的、実践的能力を養っており効果をあげている。

人間科学部では、研究能力を養う科目（健康栄養学科の「卒業研究」、理学療法学科の「理学療法研究Ⅰ、Ⅱ」、作業療法学科の「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究Ⅱ」、看護学科の「看護研究Ⅰ、Ⅱ」、こども発達学科の「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」）を配置している（資料 平成30年度 大学学生便覧）。

大学全体の就職率（対就職希望者）は、平成 28 年度から平成 30 年度の 3 年間でそれぞれ 99.8%（2017 年 5 月 1 日現在 北海道文教広報 35）、99.6%（2018 年 5 月 1 日現在 北海道文教広報 37）、100%（2019 年 5 月 1 日現在 ホームページ進路状況）で高水準となっており、成果があがっていると考えられる。

国家試験合格率において理学療法学科、作業療法学科、看護学科において全国平均を上回る成果をあげている。健康栄養学科においても管理栄養士合格率が平成 28 年度と比較して大きく上昇した。こども発達学科においては、平成 31 年度（30 年実施）教員採用選考検査における二次試験合格者（教員登録）が 24 名を数え、毎年多数の公務員合格者を輩出している。これらの結果は学外の基準による客観的なものであり、信頼性が高いものといえる（資料 北海道文教広報 39）。

学生の自己評価のため、卒業時アンケートを平成 30 年度（平成 31 年 3 月卒業）卒業生に対して実施した。なお、卒業時アンケートは平成 28 年度（平成 29 年 3 月卒業）卒業生（大学院生を含む。）から実施している。これにより、学生の自己評価による学習成果の達成度、学生支援に対する意見を調査できるようになった。

（3）問題点

健康栄養学科では管理栄養士養成課程を放棄して卒業する学生が存在し、これら学生の学習指導が未だ不十分である。この点については、本人の学習能力の的確な把握と、入学直後の担任やアドバイザーの手厚い指導が不可欠と考えられる。

健康栄養学科では管理栄養士国家試験に向けての学習指導体制の充実、管理栄養士養成課程を放棄して卒業する学生への対策をすすめるために、平成 29 年度から新カリキュラムが実施され、その 2 年度目を迎えた。今後の学年進行にしたがって効果の検証を進めて行く。

作業療法学科では、平成 30 年度には、1 年次に留年する学生が 6 名と例年になく多かった。留年学生の中には、過敏性大腸炎など心身に何らかの問題をもつ学生が 2-3 名いて、講義への出席が難しい状況であった。学生のメンタルヘルスへの支援を保健管理センターの協力を得て行う必要性が高まっている。また、学生の学力水準と教育内容とが必ずしも合致していなかったことも学習意欲の低下や成績不振の一因であるため、教育内容・方法の見直しも必要な段階に来ていると考えられ、検討を進める。

作業療法学科のディプロマポリシーのうち「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている」については 2 分野に限定したのではなく、広く「作業療法を実践するために必要な基本的技能を身につけている」というディプロマポリシーに変更する必要がある。

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目①学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

評価の視点2 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学部学科毎にアドミッション・ポリシーを定め、大学ホームページ（資料 5-1 学生募集要項 2019）及び「学生募集要項」で公表している。各学科共に求める学生像を明らかにしている。障がいのある学生の受け入れについて、人間科学部にあっては障がい者を含む幅広い人を支援する人材を養成することから、その教育課程で支障がない範囲で受け入れることとしている。

【人間科学部各学科アドミッション・ポリシー（本学科の求める学生像）】

○人間科学部 健康栄養学科

1. 健康栄養学科が期待する学生は、社会において管理栄養士として活躍し、人々の健康と社会の福祉に貢献したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある人。
2. 管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的な学力および一般的な計算能力を身につけている人。
3. 課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる人。
4. 実験・実習などにおいて、他者と協働して作業を行うことができる態度を身につけている人。

○人間科学部 理学療法学科

【意欲として】

- ・医療や介護の現場でリハビリテーションに関わりたい人
- ・人間の運動・動作のメカニズムについて学びたい人
- ・障がいのある人のために貢献したい人
- ・スポーツをする人のために貢献したい人
- ・がん患者のリハビリテーションに関わりたい人
- ・高齢者の健康維持・増進のために貢献したい人

【能力として】

- ・理学療法を学ぶために必要な基礎学力を持つ人
- ・論理的に考え自ら判断できる人
- ・自分の考えをわかりやすく説明できる人

- ・多様な生き方や考え方を理解できる人
- ・周囲に配慮し協力して行動できる人

○人間科学部 作業療法学科

- (1) 作業療法に強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする。
- (2) 基礎学力を備えている。
- (3) 他の人の言葉や文章の意味を正しく理解でき、自分の考えを文章や言葉ではっきりと表現することができる。
- (4) 人間の構造・機能のメカニズムや、生活の背景について、様々な疑問を持ち想像をめぐらすことができる。
- (5) 柔軟で誠実な姿勢で人に関わることができる。

○人間科学部 看護学科

本学科では、看護師に興味や関心がある人材を求めている。

- ・看護学を学ぶために必要な基礎学力を身につけている人
- ・問題解決に向けて、思考力と判断力、行動力を発揮できる人
- ・協働しながら、主体的に課題に取り組むことができる人

○人間科学部 こども発達学科

- ・いろいろな人とかかわり、意志や思いを伝えあいたいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。
- ・広い視野を持つ努力を怠らず、人々の生活に幅広く目を向け、論理的思考能力を持ち、バランス感覚に優れた人格でありたいと願う人。
- ・こどもの幸せを願い、こどもの発達を支えていく意欲にあふれ、専門的な力を発揮するための努力を怠らず、自ら行動することを目標とする人。
- ・こどもの生活や成長に強い関心を持ち、ユニーク入試等にも積極的にチャレンジする意欲のある人。
- ・こどもに関する心理学・教育学・特別支援学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学習によって、入試で問うたこどもへのかかわりを求める資質を開花させるようにする人。
- ・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣、社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。

本学ホームページ「3つのポリシー」の「アドミッションポリシー」に「学力の3要素を踏まえた判定」の項目があり、入学試験においては高等学校までに培われた学力の3要素に鑑み、各試験区分において 求めた提出書類・面接・小論文・各教科目試験等の総合評価

をもって合否を判定している。
と明記されている。

また、以下の学科は同ホームページに「多角的評価」を明示し、より詳しく判定の内容を公開している。

○健康栄養学科

入学試験における学生の選抜は、試験成績だけではなく推薦書 や調査票を基にして、人物像や高校での生活状況、各種の活動なども含めた多角的な評価により、合格者の判定を行う。

○理学療法学科

基礎学力、文章表現力、コミュニケーション能力、学科を選択した 動機、社会に対する関心などを総合的に評価します。

○看護学科

本学科の入学試験では、筆記試験だけではなく志望理由書や調査票などを用いて、学業継続可能性などの視点からも総合的に評価している。

○こども発達学科

学力試験、入試センター試験、面接試験等により多様な資質を評価するよう計っているが、加えてAO入試(ユニーク入試)により、いっそう多様な観点を導入している。

人間科学部の各学科でアドミッション・ポリシーをカリキュラムポリシー及びディプロマーポリシーに対応させた表を示す。

健康栄養学科におけるアドミッション・ポリシーは以下の表のように、カリキュラムポリシー及びディプロマーポリシーに対応しており整合している。

学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマーポリシー)
1. 健康栄養学科が期待する学生は、社会において管理栄養士として活躍し、人々の健康と社会の福祉に貢献したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある人。		③ 態度・志向力 C 人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。

<p>2. 管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的な学力および一般的な計算能力を身につけている人。</p>	<p>D 栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な基礎教育科目、技術・スキルの基礎としての実験・実習科目を配置し、2年次以降に学ぶ専門科目主体の学習への素地を醸成する。</p>	<p>①知識・理解度 A 人々の健康管理や健康の維持・増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につける。</p>
<p>3. 課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる人。</p>	<p>A の後半 「総合演習」、 「臨地実習」および「卒業研究」を通じて、管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養う。</p>	<p>①知識・理解度 C 地域社会の生活習慣病予防・健康増進を展開するために必要な知識・技術を身につける。</p>
		<p>②汎用的技能 B 協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。</p>
		<p>①知識・理解度 B 科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につける。</p>
<p>② 汎用的技能 A 学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。</p>		
<p>④ 学習経験・思考力 A 課題発見、解決を通して、科学的根拠を持ち、適切な評価・判定をする能力を持つことができる。</p>		

4. 実験・実習などにおいて、他者と協働して作業を行うことができる態度を身につけている人。	F 2年次後期から3年次前期にかけて豊富な学内実習を設置し、管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身に付けたうえで、3年次後期から4年次前期の臨地実習につなげカリキュラムを構成している。こうした科目配置により、就職活動への支障を極力抑えるように配慮している。	②汎用的技能C 組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。
		②汎用的技能B 協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うために、また、対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

理学療法学科におけるアドミッション・ポリシーは以下の表のように、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに対応しており整合している。

学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
・医療や介護の現場でリハビリテーションに関わりたい人	3. 医療にかかわる他の職種と適切な連携をとり、地域社会に貢献できる人材を養成するために必要な専門基礎科目や専門科目を配置します。	③ 関心・意欲 B.医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。
・人間の運動・動作のメカニズムについて学びたい人	2. 理学療法学の専門的知識・技術を系統的に学べるように専門基礎科目および専門科目、臨床実習を体系的に配置します。	① 知識・理解 A.理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。
・障がいのある人のために貢献したい人		
・スポーツをする人のために貢献したい人		
・がん患者のリハビリテーションに関わりたい人		
・高齢者の健康維持・増進のために貢献したい人		
・理学療法を学ぶために必要な基礎学力を持つ人		

<p>・自分の考えをわかりやすく説明できる人</p>	<p>1. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけるために、多彩な教養科目を配置し専門基礎科目と専門科目との連携を図ります。</p>	<p>③ 関心・意欲 A.対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。 ⑤ 技能・表現 A.理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。</p>
<p>・論理的に考え自ら判断できる人</p>	<p>4. 先進的な研究成果の理解力、課題探求能力、論理的な問題解決能力を身につけるために、少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開します。</p>	<p>① 知識・理解 B.理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。 ② 思考・判断 A.理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。④ 態度 A.幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。</p>

作業療法学科におけるアドミッション・ポリシーは以下の表のように、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに対応しており整合している。

<p>学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー)</p>	<p>学位授与方針 (ディプロマポリシー)</p>
<p>(1) 作業療法に強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする。</p>	<p>1. 教員は、学生とともに新しいことに挑戦し、学生を励まし、学生の伸びを認める姿勢を保つ。</p>	<p>② 作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。</p>
<p>(2) 基礎学力を備えている。</p>	<p>2. 学習者中心型教育・学習成果基盤型教育のために、体系性と順次性を重視した科目配置を行う。 6. 特に初年次においては、多様な入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように促す。</p>	<p>① 作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。</p>
	<p>5. 作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラークシップ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。</p>	<p>② 作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。</p>

(3) 他の人の言葉や文章の意味を正しく理解でき、自分の考えを文章や言葉ではっきりと表現することができる。	4. 知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。	④ 作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。
(4) 人間の構造・機能のメカニズムや、生活の背景について、様々な疑問を持ち想像をめぐらすことができる。	3. 問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。	⑥ 根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。
(5) 柔軟で誠実な姿勢で人と関わることができる。		⑤ 作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。

看護学科における以下の各アドミッション・ポリシーは以下の表のように、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに対応しており整合している。

学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
本学科では、看護師に興味や関心がある人材を求めている。	2. 前期から看護の基盤となる講義や実習を配置して、看護学を専攻した入学時の動機づけが継続できるように配慮している。	③ 人々の健康増進に関心を持ち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることができる。
・看護学を学ぶために必要な基礎学力を身につけている人	1. 看護免許取得に必要な看護学の基礎となる教育内容を体系化したカリキュラムを作成している。	① 看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得することができる。
・協働しながら、主体的に課題に取り組むことができる人		② 人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力を持ち、協働しながら援助を実践することができる。

・問題解決に向けて、思考力と判断力、行動力を発揮できる人		④ 科学的に思考し、創造的に問題や課題を探究し解決することができる。
------------------------------	--	------------------------------------

こども発達学科におけるアドミッション・ポリシーは以下の表のように、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに対応しており整合している。

学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー)	学位授与方針 (ディプロマポリシー)
・こどもに関する心理学・教育学・特別支援学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学習によって、入試で問うたこどもへのかかわりを求める資質を開花させるようにする人。	2. こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習することによって、保育者・教育者としての資質・能力の形成へとつなげる。	①卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。
・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣、社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。	1. 保育者・教育者・子育て支援者として求められる知識・能力を乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶとともに、そのいずれかについて一層深い知識を身につける。	②こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。

点検・評価項目②学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定

人間科学部の入学者選抜については大学全体と同様に、公募推薦入試、ディスカバリー入試、一般入試により実施している。公募推薦入試には自己推薦入試（健康栄養学科のみ）、AO入試（健康栄養学科とこども発達学科の2学科のみ）も含む。一般入試では一般Ⅰ・Ⅱ期入試、Ⅲ期入試（健康栄養学科とこども発達学科の2学科のみ）大学センター試験利用入試前期・後期を実施している。さらに、特別入試として社会人入試を実施している。2019年度入学者向けにあらたな入学試験制度である「ディスカバリー入試」が創設された。これ

は入学前の 2018 年夏から本学の教員や職員が受験生に対して本学の入学基準に到達できるように大学進学に対する動機付けやノートの取り方等を指導する育成型の入試である。これにより、志望動機がより強固な学生を受け入れることが期待される。

この枠のなかで特待生入試 A・B・C 日程を実施している。A 日程は公募推薦入試で健康栄養学科・こども発達学科が実施。B 日程はセンター利用入試前期で全学科が実施。C 日程はセンター利用入試後期で理学療法学科・作業療法学科・看護学科が実施している。

人間科学部の学生募集は大学全体と同じであるが、健康栄養学科では自己推薦入試を実施している。区分定員は公募推薦定員に含まれる。同じくこども発達学科ではユニーク入試と銘打った AO 入試を実施している。附属幼稚園の活動記録映像を使用、面談時間も 50 分と長く、志願者に好評である。

以上の入学試験のいずれも学力の 3 要素を踏まえた判定、多角的評価を行いモチベーションの高い学生が入学できるようにしている。

点検・評価項目③適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点 1 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

< 学士課程 >

- ・ 入学定員に対する入学者数比率
- ・ 編入学定員に対する編入学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

人間科学部の過去 5 年間の入学定員と入学者及び入学定員に対する入学者比率の平均値は、下表のとおりである。

【入学定員に対する入学者比率（過去 5 年間平均）】

学部学科	入学定員	入学者数					入学者計	入学者比率 (平均値)
		2014	2015	2016	2017	2018		
健康栄養学科	150	155	147	173	128	107	710	0.947
理学療法学科	80	119	104	89	98	100	510	1.275
作業療法学科	40	55	42	50	40	40	227	1.135
看護学科	80	100	96	87	103	96	482	1.205
こども発達学科	100	111	115	109	95	94	524	1.048
人間科学部	450	540	504	508	464	437	2453	1.090

人間科学部は入学者比率の平均値が 1.09 である。5 年間の平均ではほぼ定員に沿った充

足率である。しかし、健康栄養学科においては2017年度以降、入学生が定員を大きく割り込んでいるため、その原因を検証する必要があり、学生の授業評価アンケートの詳細な分析を実施している。また、新たに導入されるモデルコアカリキュラムに即したカリキュラム改定も視野に入れ、より魅力ある学習指導が行えるよう検討している。さらにオープンキャンパスにおいては、他の同列校にない教育上の特徴を前面に掲げ、他校との差別化をはかっている。一方、医療系3学科における定員超過についても是正を進めているところである。また、人間科学部の収容定員に対する在籍者比率は、下表のとおりである。

【2018年度の在籍学生数と収容定員に対する在籍学生数比率（2018.5.1現在）】

学部学科	収容定員 (A)	年次別在籍学生数				在籍学生数 (B)	在籍学生比率 (B) /(A)
		1年次	2年次	3年次	4年次		
健康栄養学科	600	110	124	162	142	538	0.897
理学療法学科	320	108	94	84	105	391	1.222
作業療法学科	160	43	38	51	45	177	1.106
看護学科	320	96	103	91	95	385	1.203
こども発達学科	400	95	93	104	112	404	1.010
人間科学部	1,800	452	452	492	499	1895	1.053

人間科学部の在籍学生比率は1.053であり、ほぼ適正数値であるが、収容定員超過の学科と収容定員を割り込んでいる学科があり、その原因を検証する必要がある。

人間科学部は医療系3学科の入学定員および収容定員の充足率が高い。この3学科の合格者の歩留まりの変動が大きいのが原因と思われる。従って歩留まりを慎重に見極め是正を進めているところである。さらに、人間科学部医療系3学科は、特に国公立大学及び他私立大学との併願受験が、一般入試において極めて顕著である。従って、これら競合大学の入試状況により、本学歩留まりが左右される場面も多く、入学傾向が一定化していないのが特徴である。

(2) 長所・特色

本学のオープンキャンパスでは、両学部共に在籍生を全面に打ち出した企画で、参加高校生の評価も高い。また、参加保護者は、我が子も先輩学生のような大学生になって欲しいと期待感に溢れ好評である。さらに、高校訪問では、新卒者の進路(就職先)や国家試験結果データ、在校生のGPA 成績データや就学状況、新入生の受験データ等を持参し、請求に応じ開示している。この資料は高校別となっており高等学校進路指導部から歓迎されている。

人間科学部では、国家試験の合格率の維持や教員採用試験実績が学生募集の安定化に繋がっている。国家試験突破率の安定と不動が、高就職率に結びついており、結果、志願保護者の本学志向を強く決定づけている。高等学校の旧カリキュラムから新カリキュラム移行時に実施した人間科学部各学科の理数教科の実質的受験科目増は、結果的に道内他私立大との差別化や本学ポジションを明確化している。

(3) 問題点

入学前に修得しておくべき知識の内容・水準の明記については実現されてはいない。本学は将来の目標が明確で、学生個々の将来像が明らかな事から、学科毎に「求める学生像」の各項目で表現するに留まっている。2016年3月にアドミッション・ポリシーのガイドラインが示された事を受け、「学力の3要素」に基づき、入学時における点検項目や評価・判断基準を整備し、反映明記する必要がある。人間科学部の一部学科において、収容定員を上回る学生を受け入れている現状については、手続歩留まりや入学辞退者等極めて困難な点はあるが、検証を重ね適正值に近づけたい。また、「実学教育」という観点からも是正が必要である。

アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの対応において、一部対応付けがされていない部分がある。これについては一貫性が求められる反面、中央教育審議会大学分科会大学教育部会「「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラムポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッションポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン」平成28年3月31日によれば、「三者の間の一体性を過度に強調することで、その内容が狭い範囲に限定された硬直的なものとなり、受け入れる学生の多様性を損なったり、大学教育の意義を減じたりすることのないよう配慮が求められている」ので、対応付けをするかどうか今後検討する必要がある。

基準6 教員・教員組織

点検・評価項目④ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

評価の視点1 ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施

人間科学部のFD研修会が以下のように実施された。

1. 日時 平成30年12月5日（水） 13:00～14:30 221教室
2. 場所 本学
3. 内容 「学外実習で困難をきたした学生に対する指導について」
発表者（各自の持ち時間は15分程度、全体で90分）
健康栄養学科 今泉博文 理学療法学科 齋藤正美
作業療法学科 金子翔拓 看護学科 鹿内あずさ
こども発達学科 田島与久 出席率78.9% (86/109)

健康栄養学科では学科のFDセミナーを以下のように実施した。

「演題：管理栄養士・栄養士の栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討と健康栄養学科の対応について

開催日：平成30年7月7日（土）

講師：芦川修貳

出席者：学内17名、学外24名

このほか、これに加えて大学および大学院主催のFD研修会に参加する他、臨地実習での指導者を招いた担当者会議を開催し、学生に対する教育について、学外からの観点から広く意見を頂いている

理学療法学科では、平成26年度から学科主催で教員のFD研修をかねた学術研修会を開催しており、今年度は平成31年3月9日（土）11時～12時半に「地域包括ケアシステム」についての講演と、卒業生の講演を行い、学生教育の上で重要な科目に位置づけられる臨床実習の進め方、卒業後の活動について、実習指導者としての観点から貴重な情報を得ている。また、臨床実習指導者を招いた臨床実習指導者会議を本学での全体会議（平成29年度は平成30年3月10日に実施）と道内各地における地方会議の2つの形式で開催し、学生への臨床教育のあり方について臨床実習指導者と教員の意見交換を行っている。

作業療法学科では毎年学内の教職員と学生、学外の臨床家に向けて作業療法学科セミナーを開催している。

第1回 平成30年11月10日（土）「オープンダイアログ～開かれた対話が投げかけるもの」講師下平美智代先生（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター看護師・心理学博士）：本学631教室

第2回 平成31年2月23日（土）「高齢者に対する予防的・健康増進作業療法プログラム

ム」講師小林法一先生（首都大学東京健康福祉学部作業療法学科/人間健康科学研究科作業療法科学域教授）：本学 221 教室（資料 平成 30 年度第 1 回作業療法学科セミナーポスター、平成 30 年度第 2 回作業療法学科セミナーポスター）。

また、作業療法学科では、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会・ワークショップに毎年、教員を 1～2 名参加させ、教育力向上を図っている。しかし、平成 30 年度は第 31 回教育研究大会が本学で開催されたため（大会長：本学副学長 橋内勇教授）、ほとんどの教員が実行委員としても参画し、渡辺明日香教授と清水麻衣子講師はポスター発表も行った（平成 30 年 8 月 24 日（金）～25 日（土））（資料 全国リハビリテーション学校協会ニュース第 9 号、p.11-12）。

さらに平成 28 年度から、教員の教育力向上を目指し、学科内での「模擬授業分析」を実施している。

作業療法学科①模擬講義（学科教員に聞いてもらいアンケートをとる）

②授業参観 平成 30 年 11 月 12 日（火）2 講時 232 教室

講義名 : 身体障害作業療法特論Ⅱ（中枢系）

授業公開教員名 : 石田 裕二

出席 : 村上

作業療法学科では平成 30 年度 9 月 1 日（土）～9 月 2 日（日）に日本ダンス・セラピー協会（JADTA）第 27 回全国学術研究大会 in 北海道を渡辺明日香教授を大会長とし、北海道文教大学を会場として開催した。事務局員として、奥村宣久准教授、清水麻衣子講師、玉 珍助教、村上優衣助教が、また、学生協力員として 1 年生 2 名、4 年生 2 名が有料ボランティアとして貢献した。JADTA は日本作業療法士協会の基礎ポイント対象学会に認定（2007 年 1 月）されており、このため作業療法士の参加者は生涯教育基礎研修ポイントを取得できる。様々なダンスやムーブメントを使って身体的・心理的・社会的な健康を回復・維持・増進することのできるダンス・セラピーは、生活行為の基盤となる身心を整え、認知・情緒・身体の統合を促すユニークな基礎的方法として、参加した教員や学生の資質向上に役立つ刺激となった。

看護学科では学科の F D 研修会を行い、授業の内容および方法の改善に取り組んでいる。

看護学科 平成 31 年 1 月 9 日（水）13：30～14：30 221 教室

「ADHD を理解する」

講師 : 池田官司 先生（作業療法学科教授）

出席者 : 23 名

平成31年1月22日（火）14:00～15:00

看護学科 ICT 共同研究企画（大学全体と共催） 221 教室

「楽しくわかるインターラクティブ講義の紹介-ICTを用いた反転学習とアクティブ・ラーニング」

講師：千歳科学技術大学 小松川 浩 教授

出席者：36名

こども発達学科では学科のFD研修会を行い、授業の内容および方法の改善に取り組んでいる。

こども発達学科

平成30（2018）年8月4日（土）午後

場所：札幌国際大学

「養成校の授業から教員養成のあり方を考える 映像をもとにした2つの授業実践発表」への参加

「北海道文教大学人間科学部こども発達学科における 幼稚園教員免許必修科目 教職実践演習（インターンシップを含む）の実際」

発表者：山口 宗兼 氏（北海道文教大学人間科学部こども発達学科准教授）

「学生にこそ必要 “驚き・感動・発見・喜び・楽しさ”

～幼児教育「表現」の授業～（北海道教育大学旭川校での授業より）」

発表者：佐藤 公文 氏（学校法人旭川宝田学園 わかば幼稚園 園長）

参加者：9名

こども発達学科授業参観

平成30年6月18日（月）3講時831教室

講義名：知的障がい教育Ⅰ（2年生科目）

授業公開教員名：児玉 稔 氏

出席：17名

（2）長所・特色

人間科学部では健康栄養学科・理学療法学科・作業療法学科・看護学科・こども発達学科の5学科で構成されていることより、各学科の特色あるFD研修が実施され、また学科横断的にFD研修を行う事が可能である。特に学外実習の指導法については学部全体で学び

合う実務的な協働性の高い教員集団となっている。

(3) 問題点

各学科の業務が優先される余り、学部全体での各教員の教育研究成果や社会貢献の内容を相互に理解し合い協力する機会は、充分構築されているとは言い難い。

人間科学部 自己点検評価実施委員

役名	氏名		
委員長	教授	松岡 審爾	人間科学部長
委員	教授	峯尾 仁	健康栄養学科長
委員	教授	大森 圭	理学療法学科長
委員	教授	渡辺 明日香	作業療法学科長
委員	教授	高岡 哲子	看護学科長
委員	教授	山口 宗兼	こども発達学科長
委員	教授	大山 徹	大学評価委員会委員(健康栄養学科)
委員	教授	草野 真暢	大学評価委員会委員(理学療法学科)
委員	准教授	奥村 宣久	大学評価委員会委員(作業療法学科)
委員	准教授	尾形 裕子	大学評価委員会委員(看護学科)
委員	准教授	西野 美穂	大学評価委員会委員(こども発達学科)